

てんさい・キャベツのシロイチモジヨトウ（新寄主）

令和7年7月下旬に、十勝管内の複数のてんさいほ場で慣行の殺虫剤を散布後にも鱗翅目幼虫が残って加害を継続するとの報告があった。散布後の食害葉に残る幼虫を確認したところ、側線の白色が明瞭な鱗翅目幼虫が認められ、羽化させた結果シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* (Hübner) と同定された。その後、8月中下旬には石狩管内、空知管内、オホーツク管内など、道内の広い地域でてんさいへの加害が確認され、9月には中央農業試験場内のキャベツほ場（無防除）でも加害が確認された。これまで、道内における本種の作物被害は渡島管内の露地栽培ねぎへの加害が確認されており、道外ではねぎ、ウリ科、マメ科、アブラナ科作物を加害する広食性の害虫であることが知られている。本種成虫は、前翅長約 12 mmで灰褐色、環状紋および腎状紋は白色～黄褐色であるものの不鮮明なことも多い。幼虫の体色は変化に富み、中齢及び老齢幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴である。また、殺虫剤に対する感受性低下事例が多く、カーバメート系（IRACコード：1A）、有機リン系（同：1B）、ピレスロイド系（同：3A）、ネライストキシシン類縁体（同：14）、ベンゾイル尿素系（同：15）、ジアミド系（同：28）などで感受性の低下が報告されている。本種は休眠性を持たず、低温耐性が低いため道外からの飛来と考えられる。

（中央農試、道南農試、十勝農試、北見農試）



シロイチモジヨトウの幼虫

（上：中央農試 武澤原図、下：中央農試 小野寺原図）